

小学校における景観教育の実践*

Landscape Education at Elementary schools *

藤井美智子**・永宮 慎也***・山本 秀夫****・佐藤 友祐*****・原文宏*****

By Michiko FUJII **・Shinya NAGAMIYA***・Hideo YAMAMOTO****

Yusuke SATOU*****・Fumihito HARA*****

1. はじめに

平成17年度より、豊かな自然資源を背景に地域の主体的取り組みによる沿道景観の保全・活用を推進するシーニックバイウェイ北海道制度が本格的に施行され、景観が地域の自然・歴史・文化・産業など、人々の暮らしと密接な関係にあることが徐々に認知されてきた。しかし、沿道へのゴミの投棄や、違法な看板類の設置もあとをたたないのが現実である。

平成16年に制定された景観法では、看板等の規制が強化され、罰則規定も厳しくなった。しかし、規制や罰則以前に、自発的に美しい景観を保全する地域住民を育てることが、より重要である。このような住民を育てる基本は、やはり「教育」であり、次代の担い手となる子どもへの景観教育は、時間はかかるが、重要な取り組みだと考えている。

一方、学校教育においては、2002年から「総合的な学習の時間」（以下、総合学習と略記）が導入され、①地域や学校、子どもたちの実態に応じ、学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を行う時間②国際理解、情報、環境、福祉・健康など従来の教科をまたがるような課題に関する学習を行う時間が設けられたことにより、教育プログラムの構築においても学校内だけでなく、地域をはじめとする外部機関との連携を模索する動きが見られる。

本報告では、このような背景をふまえて、小学校課程における景観教育の意義を述べるとともに、景観をテーマとした教育プログラムの開発と実践について報告する。また、これらを踏まえた、課題と今後の地域、学校、外部専門機関等との連携の可能性について考察する。

*キーワード：学校教育、総合学習、道路交通

** 正員 (社) 北海道開発技術センター
(北海道札幌市中央区南1条東2丁目11番地
TEL011-271-3028、FAX011-271-5366)

*** 非会員、札幌市立上野幌東小学校

**** 非会員、札幌市美しが丘緑小学校

***** 非会員、北海道開発局

***** 正員、(社) 北海道開発技術センター

2. 景観をテーマとした教育プログラムの現状

調査は、北海道内で行われている景観教育プログラムの実施事例及び、インターネット検索による全国事例を対象におこなった。なお、インターネット検索のキーワードは「景観教育」「教育・景観」「教育・環境」「教育・まちづくり」「教育プログラム」である。

表-1 北海道内の事例収集調査結果

番号	事例名称	実施地域	実施主体
a1	千歳市ジュニア景観士講座「まちなみ探検隊」	千歳市	千歳市
a2	東オホーツク景観担い手事業	網走市	網走支庁
a3	景観の視点を取り入れた学習	鹿追町	北海道十勝支庁
a4	美瑛川さと川づくり事業	旭川市	NPO 法人クランドワーク西神楽

表-2 インターネット検索による事例調査結果

番号	事例名称	実施地域	URL
b1	白川わくわくランド	熊本市	http://www.wakuwaku-land.com
b2	景観サポーター(宮城野通まちたんけんワークショップ)	仙台市	http://www.city.sendai.jp/
b3	景観啓発事業(宮崎市景観まちづくりのつどい/まちなみ観察隊/中学生のための景観教室)	宮崎市	http://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/index.html
b4	登別市景観形成基本計画	登別市	http://www.city.noboribetsu.hokkaido.jp/
b5	都市景観形成啓発事業	群馬県桐生市	http://www.city.kiryu.gunma.jp/
b6	あおもりの景観・私たちの景観	青森県	http://www.pref.aomori.jp/keikan/index.htm
b7	緑川環境教育事業	熊本県甲佐町	http://www.town.kosa.kumamoto.jp/
b8	子どもたちへのまちづくり学習	千葉県	http://www.cue-net.or.jp/joho/index.html
b9	上越市立大手町小学校6年生総合的な学習の時間	新潟県	http://www.ohtemachi-jorne.ed.jp/H13/gakunen/niko/6nen1pme.htm
b10	野外教育プログラム	北海道	http://www.yagai.or.jp/
b11	子どもの体験活動(イエティくらぶ)	北海道	http://www.neos.gr.jp/
b12	「総合的な学習の時間」に関する情報(実践事例)	長野県	http://www.educntr.pref.nagano.jp/kjohou/index.htm

千歳市が実施している子どもまちなみ探検隊では、小学校4～6年生を対象に子どもたちの視点から見たまちなみのエリアマップを作成する他、お年寄りや乳幼児になりきる等、様々な視点から観察しまちなみ改善方法を検討している。同様のプログラムは仙台の景観サポーター事業（b2）、登別市の景観形成基本計画「登別市まちづくりアクションプラン・子どもワークショップ」（b4）、群馬県桐生市の都市景観形成啓発事業（b5）で、夏休みや休日を利用して実施している。千葉県（b9）、新潟県（b10）、長野県

（b13）においては、同様のプログラムを総合学習の時間に組み込んでおり、各グループに分かれ探検ルートを立案し、まちの歴史や魅力または課題などを発見し、まとめを行っている。これらはより良いまちづくりを検討することで、都市景観の形成に対する意識の高揚を目的としており、まちづくり教育プログラムとなっている。一方、網走支庁で実施された「東オホーツク景観担い手事業」（a2）では、小学校5、6年生を対象に学校周辺と網走市内の自然環境や景観を観察し、地域らしさの検討と創出を総合学習の時間に取り入れている。同様のプログラムとして十勝支庁の「景観の視点を取り入れた学習」モデル事業（a3）、宮崎市の都市景観啓発事業（b3）、青森県のあおもりの景観・私たちの景観（b6）がある。これらの事業は、景観形成に対する意識をはぐくみ、景観資源の創造や保全、改善などを啓発しており、景観に配慮した花壇づくりや花植え、ゴミひろいなどが実施されている。

旭川市西神楽地域の美瑛川さと川づくり支援業務（a4）では、地域の景観を財産として子どもたちに誇れるふるさとを作ることを目的に自然観察学習やリバーウォッチングなどを実施。熊本市の白川わくわくランド（b1）、熊本県甲佐町の緑川環境教育事業（b7）でも、地区内に流れる川をフィールドに観察や川遊び、作文や写生のコンクールなどを行っている。また、野外教育プログラム（b12）、子ども体験活動（b12）では、川のほか、海や山、雪原などでの体験プログラムも行っている。自然の中で観察やキャンプ、トレッキングやスポーツなどを行い、自我の形成や基礎体力づくりを図るほか、自然の豊かさと大切さ、人と自然の関わり方などを理解し、貴重な自然を守り育てることを目的とした自然教育プログラムとなっている。以上、現在、実施されている景観をテーマとした教育プログラムは、「まちづくり系」「景観づくり系」「自然環境系」3つの傾向がみられる。

3. 景観をテーマとした教育プログラムの開発

シーニックバイウェイ北海道は、景観、観光、地域づくりが柱となっている。単に意匠的に美しい景観をつくるというのではなく、景観を中心に据えながらも、観光やまちづくりと連携した社会システムとしての景観形成を目指している。したがって、景観教育プログラムにおいても、このような視点を盛り込んだプログラム開発を検討する。

（1）景観と観光・地域づくり

小樽市には、道を生かして新たな冬の景観づくりをしてきた「小樽雪あかりの路」がある。保存運動で議論のあった運河、北海道の歴史にその名を刻む手宮線の廃線跡を舞台に、市民と行政が一体となりつくり出したイベントであり、スノーキャンドルやガラスの浮き球を利用し、毎年、2月中旬の10日間、ろうそくのゆらめく灯りで小樽のまちを包む。近年は、町内会や商店街など、2～3軒の隣り近所でも独自の取り組みがみられ、観光客向けだけでなく、自分たちで楽しみながらまちづくりをしていこうとする取り組みが増え続けている。景観教育プログラムの一つとしてこの景観と観光・地域づくりが一体となった「小樽雪あかりの路」を題材とし、景観教育プログラムを構築し、現役の小学校教員を対象に模擬授業を実施した。

以下に模擬授業の概要を示す。

対象：小学校高学年

授業科目：総合学習

授業概要：

- ・小樽雪灯りの路（運河会場）の写真提示し、その場所が何処か、何故そう思ったか考える。
- ・小樽で行われているイベント（小樽雪灯りの路）を雪を活用した、観光振興の取り組みとして紹介。
- ・さらに、同じ時期の小樽の写真（住宅街）を提示し、何を行っているのか考える。
- ・「小樽雪あかりの路」初代実行委員長のお話、会場数の移り変わりを紹介。（市民が楽しむ景観づくりへ発展）

（2）景観と観光・農業

景観と観光・農業をテーマとし、「美瑛の農村景観」を題材とした教育プログラムを開発。

対象：小学校高学年

授業科目：社会科

授業概要：

- ・美瑛の赤麦畑の写真を示し、その場所が何処か、それは何かを考える。

- ・ 荒れ地となった畑の写真を示し、前の写真同様にその場所が何処か、それは何かを考える。
- ・ 次に、荒れ地になった理由、その背景にある離農、農業経営の難しさなどを考える。
- ・ さらに、観光客や写真愛好家でにぎわう赤麦畑の写真から、なぜ赤麦畑が復活したのかを考える。
- ・ さらに観光と農業の関係にまで追究をすすめ、景観、観光、農業のあるべきすがたを考える。
- ・ 最後に、一枚の赤麦畑の背景にある社会の構造をまとめる。

5. おわりに

既存の教育プログラムは、「まちづくり系」「景観づくり系」「自然環境系」3つの傾向がみられる。しかし、実際の景観問題は、そのような単純な構造ではなく、より複雑である。したがって、内容的にはそれぞれが独立した形のプログラムではなく、それぞれの相互関係や背景を含めたプログラムづくりが必要である。このような問題意識はシーニックバイウェイ北海道の活動理念と一致するものである。

本報告では、景観、観光、地域づくりを視点とした景観教育プログラムについて、現場の小学校教師とともにプログラム開発を行った。当然であるが、シーニックバイウェイ北海道のための教育プログラムではなく、小学校教育における学習指導要領などとの整合性は必要である。

ただ、学校教育側から見ると、社会科の教育目標の一つが「公民的資質」を育てることであることから、「景観」という公共財を授業テーマとして取り入れることは、十分に学校教育との整合性がとれると考えている。また、景観の背景にある地域社会や産業との関係は、まさに社会科や総合学習が取り組んでいるテーマであり、どの地域でも、どの学校でも使える可能性がある。

また、景観とまちづくり、景観と農業というように、より景観問題の背景にある社会システムとの関係を明らかにするプログラムづくりを心がけた。模擬授業などでの実践を行った程度で授業実践の経験は少ないが、今後、実践事例を重ねて充実させていきたいと考えている。

景観をテーマとした学校教育プログラムの開発は、北海道においては始まったばかりである。学校教育を第一に考え、美しい心をもった人間を育てる教育プログラムを目指したいと考えている。

表－3 「小樽雪あかりの路」をテーマにした授業計画

目的	授業の概要
道と雪を生かすまちづくり	資料提示 小樽雪灯りの路（運河会場）の写真 ・場所は何処？ ・その理由は？
市民と行政によるまちづくり	↓ 同じ時期の小樽の写真（住宅街） ・何していると思う？
市民の自主的なまちづくり	↓ 小樽の雪あかりの路初代実行委員長 山口氏のお話を紹介 ・運河会場に人が減ってもいいんだよ！ ・大切なのは、市民が自分たちの手で、まちの文化をつくりだしていくことなんだよ。
風土にふさわしい景観をつくり出す市民的資質の育成	↓ あかりの路会場数のうつりかわり（グラフ）

表－4 「美瑛の農村景観」をテーマにした授業計画

目的	授業の概要
赤麦畑を通して農村景観の価値を考える	資料提示 美瑛赤麦の変遷 ・場所は何処？ ・その理由は？
荒れ地になった赤麦畑の背景を農業の視点から考え	↓ 赤麦が消えた謎 ・荒れ地になった赤麦畑の理由、背景の追究
市民の力で復活した赤麦畑の理由、観光と農業の関係を考える。	↓ 赤麦復活の謎 ・赤麦畑の復活した理由と観光客の関係を考える。 ・観光と農業の関係について考える。 ・地域にとって、望ましい、景観、観光、農業の関係を考える。
景観、観光、農業の地域における望ましい関係を考える。	↓ 今も残る赤麦の謎